

発 言 通 告 書 要 旨 （１枚目／全３枚）

氏 名 東野 真樹

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		市内高校の魅力向上について 法政大学理工学部・加賀高校・加賀市による包括連携協定について 連携協定を通して、教育分野における交流・連携を深め、高校の魅力向上、高等教育及び大学教育の活性化、ひいては地域の活性化に向け取り組んでいくとの事だが、今後進めていく上で、同じ方向を向く必要がある県教育委員会やＰＴＡ、その他にも、地域や同窓会・加賀高校の未来を考える会などの各種団体に対しての理解促進や連携については、どのように考えているのか。 さらに、現在通っている学生に対して、まずはどのようなことから始めていくのか、今年度検討されている具体的な取組の内容を問う。	
	(2)		市立の教育機関から繋げる市内の県立高校の魅力化及びそれに伴う地域活性化に向けた今後の展望について 加賀市には加賀高校以外にも全日制の高校として大聖寺高校や大聖寺実業高校、定時制として加賀聖城高校もあるが、金沢大学融合学域サテライトの開設や宝塚医療大学観光学部の誘致など、明るい兆しが出てきている中、大学等の連携も含め今後その他の市内高校の魅力向上に向けてはどのように考えているのか。 さらに、これまで市内の県立高校の魅力向上に対して大きな課題であった石川県教育委員会との垣根を乗り越えることで、地域全体の教育機関の連携及び地元企業との連携を核とした取組が可能になるのではないかと考えるが、地域の活性化につながるための具体的なビジョン構築に向けて今後どのように取り組んで行こうと考えているのか、併せて問う。	
2	(1)		一般県道串・加賀線交通安全工事（動橋小学校周辺歩道整備）について 県が行う歩道等の整備計画について 令和３年から整備計画が始まり「主要地方道串・加賀線」における安全対策として、動橋小学校周辺での歩道整備を進めている。 昨年の１０月から工事が着工され、現在、動橋小学校前交差点付近歩道の一部が整備されているが、今年度の具体的な整備計画を問う。 また、今後の工事予定等について、地域住民への情報提供はどのようにして行われているのかも、併せて問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全3枚)

氏 名 東野 真樹

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
	(2)	市道側歩道の取り付け整備に関する問題について(持ち込み資料 No. 1、2) 動橋小学校交差点から中島踏切方面に向かう市道側から県道側の歩道にアクセスする際、私有地を通過しなければならない現状になっているが、所有者への迷惑被害や歩行者に対する安全の面からも用地を買収し、私有地を通過しないよう市道側の取り付け整備をすべきだと考えるが所見を問う。	
	(3)	県の整備に伴う動橋地区会館の維持補修事業費について 県の整備に伴う動橋地区会館の維持補修費として 264 万円を補正計上しているがどのような工事が必要であるのか。スケジュール等も含めた事業内容の詳細を問う。 また、維持補修費事業費に対して市の負担はあるのか。併せて問う。	
3	(1)	県が発表した新地震被害想定(福井平野東縁断層帯被害想定)を受けての加賀市の防災対策の見直しについて 加賀市地域防災計画の見直しについて 福井平野東縁断層帯に関する地震被害想定において、これまで以上に広範囲で甚大な被害が出ると予想されたことを受け、本年度内に市地域防災計画の再修正に向けた検討をするとのことであるが、再修正に向けて重要となる点について問う。 ① 地盤の特徴や家屋の状況などを考慮した市独自の分析調査を行うかどうかについて ② 災害時に必要な物資や防災用資機材の備蓄拡充について ③ 仮設住宅、設置候補地及び設置計画について ④ 災害ごみ置場の拡充策及び設置計画の見直しについて ⑤ 避難所設置個所の拡充策及び設置計画の見直しについて 以上の5点について所見を問う。	
	(2)	市民に対する「自助力」の向上に向けた啓発活動などについて 大規模地震の発生被害を最小限に抑えるためには、行政の対応だけでなく、住民一人ひとりの『自助』の意識と備えが不可欠であり、特に家具の転倒防止や耐震性の劣る昭和 56 年以前の住宅の改修、非常用持ち出し袋の準備や家族での安否確認手段の確認など、日常的な備えが命を守る鍵であると考えます。 今回の新地震被害想定を受けて、市として、「自助力」を高めるための市民への啓発活動の強化や家庭防災に対する更なる支援策は検討しないのか。 また、啓発活動の強化策として、これまで行ってきた任意で配信する防災メールやLINEに加え、任意ではない個別受信機を使っての定期的な配信での啓発活動を行ってはどうかと考えるが、所見を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 （ 3 枚目／全 3 枚）

氏 名 東野 真樹

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	(3)		各地区における「共助力」の向上について 大規模地震の発生被害を最小限に抑えるためには、地域における「共助力」を高めることが重要である。 加賀市においても各地区で地域自主防災組織を作っているとは思いますが、ほとんどが任期の短い（任期 1 年程度）区長会が中心となった組織であり、継続性に欠け発展せず機能しづらいのが、現状の課題であると思う。 そこで、市が率先して各地区防災士を中心に地区組織が連携し構築する、地区自主防災組織の構築を目指してはどうか。 また、新たに構築するにあたって、災害物資や機材などの備蓄品購入助成や訓練に対する支援をしてはどうかと考えるが所見を問う。	
4	(1)		加賀市消防に関する地域防災力の強化について 水防資機材更新事業及び消防団防災資機材更新事業について 災害発生時の消防団活動に必要な資機材を購入し、災害対応力の強化及び地域防災力向上を図るとのことであるが、各事業における各分団への資機材の配備及びそれに伴う訓練の方法・計画など事業の詳細を問う。 また、消防団防災資機材更新事業については、更新だけなのか増台し増強した資機材もあるのか併せて問う。	
	(2)		豪雨災害時の現在の消防における対応策について 豪雨災害発生の恐れがある場合もしくは発生した（河川の氾濫や土砂災害など）場合、現在、消防では分団との連携も含めどのような対応をしているのか。また、去年の奥能登豪雨を踏まえて、強化や改善した点があるのか問う。	
	(3)		女性消防吏員の採用及び勤務状況と今後の取組について 昨今、自然災害等であらゆる業務が消防においても求められていると思う。さらに加賀市においては、特に人口減少による消防吏員のなり手不足が問題視されることが予想される。 その様な事に対応するため、加賀市消防では女性が活躍できる職場としての取り組みに積極的に取り組んでいると聞いているが、近隣自治体と比較した、消防本部における現在の女性消防吏員の採用状況及び配置状況を問う。 また、さらに女性が働きやすい職場として、今後どのように取り組んで行くかの展望も併せて問う。	